



經濟學叢書

酒稅ノ矛盾及不徹底

說

第六卷 第一號 (通卷第三十二號) 大正七年一月發行

神戸正雄

緒言 (一) 本研究ノ目的 (二) 本研究ノ物體

第一段 倫理衛生ヨリ觀タル酒稅、其一 酒稅ノ存在ト倫理衛生、其二 酒稅ノ多收ト倫理衛生、其三 酒稅ノ公平ト倫理衛生、其四 酒稅ノ經濟影響ト倫理衛生、

第二段 國民經濟ヨリ觀タル酒稅、其一 酒稅ノ存在ト國民經濟、其二 酒稅ノ高サト國民經濟

第三段 財政ヨリ觀タル酒稅、其一 酒稅ニ於ル給付能力又ハ正義觀、其二 酒稅ニ於ケル屈伸力又ハ時勢觀、其三 酒稅ニ於ル任意性又ハ自由觀、

結論 (本論ノ要旨)

緒言

近頃ハ我邦ニテモ酒稅増徴案ガ計畫サレテ居ルトイフニ就テハ、此ガ當否ヲ決定スルノ前提ト

論說 酒稅ノ矛盾及不徹底

第六卷 (第一號) 一

シテモ此際此税ノ性質ヲ研究スル必要ガアルバカリデナク、此當面ノ問題ヲ離レテモ本税ガ多クノ學者ニヨリテ一ノ適當ナル税ト目セラレ(註二)、實際各國ノ財政ニ於テ重キヲ成シ(註三)特ニ日本ノ其ニ於テハ最大ノ税デサヘアル(註三)トイフノ故ニ大ニ之ガ研究ヲ要スル。予ガ茲ニ一文ヲ作ル所以デアル。

(註一) 本税ノ適當ナル税タルコトハ多數ノ學者ノ認ムル所デアアル。例之ふいつつハ曰ク、酒精飲料ガ頗ル適當ナル租税物體タルコトニ就キテハ原則上消費税ヲ排斥セザル凡ヘテノ人ノ完全ニ一致スル所デアアルト。こんら一ゴハ曰ク、酒精飲料ハ一ノ頗ル適當ナル租税物體、否ナ煙草ト共ニ最適當ナルモノニ屬スルト。らうハ曰ク酒精飲料ハ課税ニ適當スト。えーべるハ曰ク酒精飲料ガ課税ニ適當スルコトハ之ヲ否ムコトヲ得ナイト。へつけるモ亦曰ク既ニ此基礎ダケテモ(財政收入ノ點)飲料ガ頗ル適當ナル租税物體ヲ成スト。ふなつげハ曰ク消費税ガ必要デアラナラバ火酒ガ全ク特ニ之ニ適當ナルコトハ殆ン下何人モ疑ハナカツタト<sup>1)</sup>。

獨リふあいふあーハ反對ス曰ク。酒精飲料ガ労働者階級ニ取リテノ必要ヲ認メ、其適度ナル消費ガ此階級ノ利益上希望セザルベカラザルモノナルニ於テハ、此ガ課税ノ適當ナル物體デハナイコトナルト。又曰ク獨英ニテハ眞ノ國民的飲料ト呼ハレ得ル所ノ麥酒ハ葡萄酒ヨリモ一層課税ニ適當シナイト<sup>2)</sup>。

(註二) ふいつつハ曰ク、凡ヘテノ文明國ニテ飲料税ガ財政上最重要ナル間接税源ニ屬スト。ばすてーぶるハ曰ク、凡ヘテノ歐諸國ハ歳入ノ主要ナル部分トシテ内國消費税ニ依リ——而シテ殆ント凡ヘテノ國ニテ酒精飲料及煙草ガ間接税收入ノ重ナルモノヲ成スト。へつけるハ曰ク今日ハ此税ガ凡ヘテノ吾人ノ文明國ニ於ケル消費税ノ主要成分ヲ成シ、其國庫的給付能力ヨリイヘバ財政ノ主タル金錢の方ノ材料ヲ表ハスト。ふなつげハ曰ク消費税ノ中ニ就キ酒精飲料税ガ其根幹又ハ心髓ヲ成スト。ばーりゆーハ曰ク多數國ノ重要ナル消費税ハ飲料税デ——英國豫算ノ五分二以上ハ飲料税(尤モ此ニ珈琲茶ヲ含ム)ニヨ

- 1) Fitz, Weinsteuer. S. 4. Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 72. Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. II. S. 247. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 345. Heckel, Lehrbuch d. Fw. II. S. 53. Vocke, Abgaben, Auflagen u. d. Steuer. S. 545.
- 2) Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 400. 409-410.

ツテ支持セラルト。<sup>3)</sup>

(註三) 日本ノ一九一七—八年度豫算ニ於ル酒類諸税ノ地位。<sup>4)</sup>

酒類諸税收額	全租税收額	全租税印紙收入及専賣益金
八九、八七四、七二三、	三二〇、四三四、四八九、	四一九、〇三八、二〇〇、
二八、	一〇〇、	—
一一、	—	一〇〇、

酒税ニ就テハ種々ナル問題ガアルガ、中ニ就キテモ之ニ存スル根本的ノ矛盾不徹底ノ諸點ノ如キハ、之ガ性質ヲ理解スル上ニ最肝要デアアル。暫ラク之ヲ探テ研究ノ對象トシヤウ。

## 第一段 倫理衛生ヨリ觀タル酒税

### 其一 酒税ノ存在ト倫理衛生

酒税ニハ通例其副目的トシテ倫理及衛生上ノ理由ガ充テラルル(註四)。副デアアルヘキモノ故重キヲ成サヌヤウデハアルガ、實際ニハ此税ニツイテ何人モ之ニ多ク顧慮スル所デアアル。然ルニ眞ニ此倫理衛生上ノ目的ヲ貫カウトスレバ酒税ノ存立ヲ廢止スル所マデ往カナケレバナラヌコトニナル。茲ニ此税ノ根本ノ矛盾ガアル。抑々此税ニ倫理衛生上ノ理由ノ附セラルルノハ、酒ガ飲用者ノ神經體系ヲ破壊シテ身神ヲ衰耗セシムルノミナラズ、道義上ニモ不良ナル結果ヲ齎ラシ、就中

3) Fitz, a. a. O. S. 4. Bastable, Public finance. 3 ed. p. 504. 512. Heckel, a. a. O. S. 53. Vocke, a. a. O. S., 539. Beaulieu, Traité de la science des finances. 5 ed. I. p. 661. 662.

4) The seventeenth financial and economic annual of Japan.

家庭生活ノ神聖ヲ紊スノ弊ガアル。故ニ之ニ税ヲ課スルコトニ依ツテ其價ヲ高クシ、以テ幾分ナリトモ其使用ヲ節セシメルコトガ衛生及倫理上望マシトイフノデアアル(註五)。併シ酒税ガ課セラレタニシテモ、其レダケ酒價ヲ高ムルカニ疑ガアルガ、此ハ假リニ其レダケ高クナルトシテモ爲メニ必スシモ飲酒ヲ節スルコトニハナラヌ。此場合飲酒ヲ節スルトイフコトニナル可能モアルガ、併シ脱税トイフ不道義ヲ誘フ傾モアリ(註六)。一層強ク一層有害ナル酒ヲ用ユルコトトナル恐モアル(註七)。且ツヤ此ガ使用ノ禁止セラレナイデ單ニ酒税賦課ニ止マル間ハ、各人が多少ノ使用ヲ爲スコトトナル。其使用ノ少量ナル以上ハ、上記ノ弊モ少イガ、既ニ一旦此ガ使用サレテ居ルト、段々ト過度使用ニ陥ル危險ヲ免レナイデ、到底夫ノ弊ヲ絶ヤスコトヲ得ヌ。デ此税ニヨリテ社會ノ一部人ノ反省ヲ促スダケノコトハ出來ルニセヨ、他ノ一大部ニハ矢張り有害ナル影響ガアリ、少クトモ一部ノ人ニハ酒税ガアルガ爲メニ一層有害ナル影響ヲ生ズル。故ニ此倫理及衛生ガ國家ノ健全ナル發達ノ爲メニ必要デアリ、且ツ酒ガ肉體上精神上利益ヨリモ損害ノ多キモノナル以上ハ、假令財政收入上ニ缺陷ヲ生ズルトモ(註八)、斷然此税ヲ止メ、酒ノ使用ヲ禁止スルコトトスルガ良イ(註九)。特ニ國家ガ最高ノ道義團體タル以上ハ、其維持ノ爲メニ、人民ノ不道義的行爲ヲ承認シテ其頭ヲ撥ネルニ至テハ矛盾モ亦甚シイ。此點ヨリイフテモ酒ノ使用ヲ禁止スルカ、然ラザレバ之ガ使用ヲ認ムルニシテモ之ニ税ヲ課セザルコトトスヘキモノデアアル(註一〇)。或ハ夫ノ弊

害ノ匡正ダケナラバ、各人ノ酒ヲ使用シテモ弊害ナキ所ノ一定程度内ノ使用ヲ許シテ之ニ税ヲ課シ又ハ課セザルコトトスルノモ一方法デハアルガ、此一定量ノ使用ノ勵行ハ到底困難デアル。矢張り夫ノ弊害ノ完全ナル排斥ハ酒使用ノ禁止ニヨルノ外ハナイ。兎モ角夫ノ弊害ヲ匡正スル爲メニハ租税ノ働キハ到底不十分且ツ不適當デ、酒ノ使用禁止カ、然ラザレバムシロ教育ニ依ルヘキモノデアアル(註一一)。

(註四) ろっしあー曰ク、廣ク行ハルル奢侈品ノ消費税ノ中デモ酒精飲料税ガ最ニ其大ナル收益能力ノ爲メノミナラズ、其道義上ノ效用ノ爲メニモ愛好セラル所デアルト。<sup>5)</sup>

(註五) こんらー曰ク、古ヘハ人ガ酒精飲料ヲ不要ナルモ有益ナル營養方便トシタガ、醫學ト經驗トガ此ニ於テ利益ヨリモ損害ノ多キコトヲ證明シタ。其一時のニ餘リ大ナル享樂及日常ノ消費ガ漸次神經體系ヲ破壊スルコトナル。新シキ觀察ハ強キ肉體上及精神上ノ緊張ニ於テ酒精飲料ガ進捗的テハナクテ常ニ之ヲ停止シ得ルコトヲ示シタ。——尤モ主タル危險ハ濫用ニ在ル。適度ノ使用(特ニ葡萄酒及麥酒ノ)ハ衛生上有害トハイハレナイト。へつけるハ曰ク、生理學的研究ハ人間ノ身體ニ對シテ酒精享樂ノ有害ナル影響ヲ證明シタ。尤モ消費量ノ多少ニ依リ又飲料ノ含ム酒精分ニヨリテ有害度ノ異ルコトガ觀察セラルル。——酒精飲料ノ享樂ガ許サレタル標準ヲ越ヘテ一ノ國民病トナレバ、廣キ人民階級ノ肉體的及精神的健康ガ非常ニ危ウセラルルト。えーべるひハ曰ク、酒精飲料ノ大ナル消費ハ神經體系ヲ破壊スルト。ばすてーぶるハ曰ク、租税金道義化(教育的)ノ力トシテ用ユルノ希望ハ今日ニテモ酒精飲料税ノ證明スル如ク重要ナル元素デアアルト。<sup>6)</sup>

特ニ火酒、ニツキテしほーレハ曰ク、火酒税ノ適當ナルコトハ火酒ヲ多量ニ飲マバ肉體ヲ毒シ精神ヲ衰ヘシメ、家族生活ヲ破壊スルコトニヨツテ強メラルルト。びーるざつくハ曰ク火酒消費ハ肉體及精神ニ大ニ有害ナル影響ヲ有スル。此故ニ其高キ價ニヨツテ其消費ノ減少ヲ齎ラスコトガ既ニ多クノ方面ヨリ希望スヘキモノト說明セラレタ。此目的ノ爲メニ適當ナル方法

5) Roscher, System d. Fw. 5. Aufl. II. S. 42.

6) Conrad, a. a. O. S. 72. Heckel, a. a. O. S. 53. 54. Eheberg, a. a. O. S. 345. Bastable, l. c. p. 505-7.

ハ適當ナル税ノ徵收デアルト。匿名政治家ハ此肉體及精神ニ有害ナル影響ヲ有スル飲料ノ餘リ容易ニ過度享樂トナルコトガ擴張セラレズ寧ロ減少セラルルコトノ爲メニ相當ニ課税セラレナケレバナラヌト。すたいんハ曰ク常ニ火酒ガ政府ニハ下層階級ノ道義及衛生状態ニ對スル危險ト見ヘタト。しえふれーハ曰ク、火酒ニツイテハ衛生道義上ノ副觀察點アリテ或度マテ其高キ課税ガ辯護セラルルト。らうモ亦火酒税ヲ變ムル理由トシテ、火酒ノ享樂ガ容易ニ過度トナリ、習熟ニヨリ一ノ必要トナリ、然ルトキニ精神及肉體ニ有害ニ働クトイフコトヲ擧ゲテ居ル(尤モらうハ一般ニ酒精飲料ニツイテハ勞働階級ノ力附ノ目的ヲ達スル所ノ消費ハ宥忍シテ負擔セシメラルルコトガ希望スヘシトイフ)。<sup>67)</sup>

(註六) ぶあいふあーハ火酒ニツキテ其税ガ餘リニ高クレバ、此ガ忌避ノ誘惑ヲ生ズトイフ。<sup>68)</sup>

(註七) らうハ曰ク葡萄酒税ノ高率ハ其混成ヲ刺戟シ健康ヲ損シ國庫ヲ損スルノ不利ヲ生ズト。ぶあいふあーハ曰ク葡萄酒税ガ或高サニ達スレバ混成ヲ刺戟シ——此人爲的混成ガ健康上有害ナル結果ヲ有ツト。<sup>69)</sup>

(註八) ばすてーは曰ク今日ノ制限的立法ヲ止メテ禁止トスルノ可能ハ國家收入ニ大問題ヲ生ズル。火酒及麥酒税ノ五割ノ減却ハ英國豫算ニ於ケル大缺陷ヲ意味シ、殆ト之ニ代ルヘキ財源ヲ見出スコトハ難カラウト。<sup>70)</sup>

(註九) 酒使用ヲ禁止スルコトハ最早財政問題ノ範圍ヲ脱スル。うんぶえんばつにハ曰ク火酒ノ過度ナル消費ヲ抑ユル爲メニ、頗ル高キ税ヲ課スルノ案ハ課税ノ理論ニ關シナイ。之ヲ實現スレバ火酒税ヲ禁止トスルコトナルデアラウト。匿名政治家ハ曰ク、火酒ニ禁止税ヲ課スルコトハ財政學ノ問題デナイ。唯ダ衛生警察ノ領域ニ屬スルト。<sup>71)</sup>

(註一〇) 酒ニ關スル國家政策ノ理想ハ其使用禁止ニアル。ばすてーは曰ク國家ノ財政上ノ優良ヲ、不必要ニシテ多クノ場合有害ナル物ノ消費ノ増加ニ基ケルコトノ道義上ノ困難ガ將來ニハ益々感ゼラルルデアラウ。禁酒論者ハ飲料税ガ他ノ收入ヲ大ニ超過スル現狀ニ到底満足スルヲ得ナイト。<sup>72)</sup>

(註一一) ぶあいふあーハ曰ク多クノ人ハ火酒ニ對スル高キ税ガ國民中ノ過度飲酒ヲ阻止スル最良ノ方便ト信ジタ。併シ經驗ガ此見解ニ反對シ、凡ヘテ此ノ如キ間接方法ガ其目的ヲ唯不完全ニ達スルコトヲ示シタ。英國ホド火酒税ノ高キ處ハナク而モ此國ホド其享樂ノ過度ナ處モナイ。或國民ノ性質及傾向ハ外部的強制ニヨツテ急激ニ改造スルコトハ出來ナイ。恒久的結

7) Scheele, Deutsche Reichsgesetz betreffend die Besteuerung des Branntweins. S. 7. Biersack, Ueber Besteuerung. 4S. 177. Staatsmann a. D., F.w. S. 314. Stein, Lehrbuch d. F.w. 5 Aufl. II II S. 319. Schäffle, Steuern. B. T. S. 283. Rau, a. a. O. S. 248. 263.  
8) Pfeiffer, a. a. O. S. 419.  
9) Rau, a. a. O. S. 240. Pfeiffer, a. a. O. S. 402.

果テ弊クルニハ堪能ニシテ良好ナル教育ノ外良法カナイト。<sup>13)</sup>

## 其二 酒税ノ多收ト倫理衛生

酒税ガ各國ニテ維持セラルルノニハ其多收トイフノトガ一ノ重大ナル理由デアル(註一三)。然ルニ此ガ又其倫理衛生上ノ目的ト矛盾スル。倫理衛生上カライヘバ各人ガ全ク酒ヲ使用シナイカ、又ハ單ニ其弊害ナキ程度ニ少量ノ使用ヲ爲スコトガ望マシク、此目的ノ爲メニ各人ニ斯カル少量ノ使用ノミ許ス制度ガ行ヒ難シトスレバ、此使用ヲ禁止スルカ又ハ禁止ノ高税ヲ課スルコトトナラナケレバナラス。然ルニ財政收入上ヨリシテハ此ノ如キハ愚ナルコトデ、ムシロ之ガ使用ヲ許スハ勿論ノコト、之ガ税ヲ適當ニ輕クシ、然リトテ又餘リ輕クシテモ收入ガ小クナルカラ輕カラズ重カラズ收入ヲ大ニスルノニ最好都合ノ處ニ定メルコトガ獎メラルル(註一三)。而シテ實際ノ處ハ何處ニテモンシテ我日本ナドデモ此ニツイテハ寧ロ收入上ノ都合ニ重キヲ置イテ定メテ居ル(註一四)。隨ツテ倫理衛生ノ方ハ輕セラレテ居ル。尤モ酒税ヲ餘リ高クスルコトハ飲酒ヨリ生ズル倫理衛生上ノ弊ヲ少クスルケレドモ、一層有害ナル強キ酒ノ使用及密造脱税ニヨル倫理衛生上ノ弊ノ増加スルトイフコトモアル(註一五)。此等ノ心配ヲモ全クナクスル爲メニハ酒使用ノ禁止ニ歸着スル外ハナイ。尙ホ又多收トイフ點カライヘバ各種飲料間ノ負擔ニ相當ナル均衡ヲ得セシメルコトヲ要スルガ(註一六)、倫理衛生上ヨリシテハ特殊ノ飲料ヲ非常ニ重ク課税シテ他ノ飲料ヲ非常ニ輕

13) Pfeiffer, a. a. O. S. 419.

クスルコトガ望マシイコトニナリ、其鈎合ノ定メ方ガ前ノ收入上ヨリノト衝突スルヲ免レナイ。

(註二) ろつしあー曰ク酒精飲料税ハ其大ナル收益能力ノ爲メニ愛好セラルルト。みるハ曰ク今日關稅及内國消費稅收入ノ殆ト全部ヲ成ス所ノ稅即チ砂糖珈琲茶葡萄酒火酒及煙草ハ本來收入ノ大ナル額ノ必要ナル處ニハ非常ニ適當ナル稅テアルト。<sup>14)</sup>

(註三) ろつしあー曰ク收額ヲ無トスヘキ財政上愚ナル稅ノ高サテ國家ノ道義上ノ義務ト爲スホドニ奢侈警察上ノ考ヲ擴張シテハナラヌト。<sup>15)</sup>

(註四) ばすてー曰ク此等ノ飲料ノ國民的消費ヲ減少スル目的ハ公收入ノ而ク重要ナル維持者ヲ維持スル目的ノ爲メニ延期セラレタト。<sup>16)</sup> 而シテ日本ノ酒造稅ハ最近左ノ如キ發展ヲ示シテ居ル。<sup>17)</sup>

大正三年度

二年度

元年度 明治四十四年度

四十三年度

四十二年度

八二・百六四

九二・

九〇・

九一・

八三・

八四・

此レダケデハ酒造稅收額増加ノ形跡ハ著シクナイ。戰時ニナツテハ大増加シタガ、此ハ一時のテアル。日本デハ之ニ増稅ノ餘地ハ少イ。此上増率シタラ收入ガ絶對的ニ減ルカモ知レナイ。參考ノ爲メニ戰前ノ外國ノ酒稅負擔ヲ見ルノニ、酒精及煙草稅負擔ハ英國一人當リ二十七馬克、佛國二十一馬克半、獨逸十馬克七十文デアルノニ、日本ノ之ニ該當スルモノハ五馬克三十二文トナル(予ガ政府統計書ニヨリ計算スル所)デ日本ハ國民所得ノ割合カラ見テ比較的相當ニ重イ。此上ノ負擔ハ困難デアラウ。獨逸デハ將來ノ必要ニ應ズル豫備稅トイヘルニシテモ、其ハ日本ニハ當ラナイ。

(註一五) ろう曰ク高キ火酒稅ニヨリテ、密造ノ危險ガ増加スルト。みるハ曰ク今ノ實際ニテハ火酒及煙草稅ノ如キハ密賣ガ大ニ生ズルホドニ高イト。<sup>21)</sup>

(註一六) ぶあいふのーハ曰ク火酒稅ヨリ大收入ヲ得アルコトハ其代用品トシテ用立ツヘキ凡ヘテノ酒精飲料ガ齊シク相當ナル稅ニテ課セラルルトキニノミ達スヘキモノデアルト。<sup>22)</sup>

14) Roscher, a. a. O. S. 42. Mill, Principles of P. E. Bk. V. chVI. § 3.  
15) Roscher, a. a. O. S. 43. 16) Bastable, l. c. p. 521.  
17) 主稅局四十二回統計年報書  
18) Lissner, Die Zukunft d. Verbrauchssteuern. S. 32-33.  
19) The 17th financial and economic annual of Japan.



### 其三 酒税ノ公平ト倫理衛生

酒税ニ於テハ一面倫理衛生上ヨリイヘバ酒ノ種類ニヨリ税ノ重サヲ區別シナケレバナラヌコトニナルガ(註一七)、他面給付能力ニ應ズル公平トイフ觀察點カライヘバ其トハ反對又ハ異リタル解決ヲ要スルコトニナリ得ル(註一八)。此ニモ矛盾ガアル。實際ニハ此二ノモノノ衝突スルダケデハス前者ニ偏重スル傾ガアルガ、税トシテハ給付能力ニ應ズルコトガムシロ重要トイハナケレバナラス。

(註一七) 此觀點ヨリすたいんハ曰ク、人ガ火酒税ヲ以テ、火酒ノ消費チ出來ルダケ妨ケ之ニ代フルニ葡萄酒及麥酒ノ消費チ以テスル爲メノ行政方法ト見タ。(勿論經驗ハ其効果ヲキコトヲ示シタガ、一般ノ觀察點ハ此ニモ拘ラズ維持セラレテ)火酒ハ原則上最高課税飲料トセラレタ。——麥酒ニ於テ最低税率ガ定メラレナケレバナラヌト。らうハ曰ク人ハ麥酒ノ如キ勞働階級ノ爲メニ特ニ適當ナル飲料ノ消費チ減少スルカ又ハ其消費ノ一部ガ火酒ノ享樂ニ向フコトヲ刺戟スルホドニ麥酒ヲ高ク税シテハナラス。——火酒税ハ麥酒及葡萄酒ト正常ナル割合デ、此三飲料ノ頗ル不同ナル酒精分ヲ顧慮シテ定メラルヘキノデアルト。ぶあいふあーハ曰ク然ラザレバ其代リニ來ルヘキ他ノ安價ナル國民飲料タル火酒ガ勞働者ノ道義及健康ノ爲メニ麥酒ヨリモ一層不利ナルガ故ニモ、麥酒ノ消費ガ妨ケラルルヨリハ寧ロ助長スヘキノデアルト。匿名政治家ハ曰ク麥酒ガ不良ナル火酒ノ享樂ヲ驅逐シ、國民ニ一層健全ナル營養材料ヲ供スルト。こーんハ曰ク火酒消費ノ普及ハ他ノ酒精飲料ノ普及ヲ妨ル原因ト聯絡スルト。<sup>23)</sup>

尤モ此飲料ノ種類ノ倫理衛生觀ニハ其種類ノ地方ニヨル文明及自然事情ニヨリ異ルコトヲ考慮ニ入レナクテハナラス。之ニツキこーんハ曰ク、酒精飲料ハ氣候及文明事情ニヨリ異國異地方ニ取リテ頗ル異リタル重要ヲ有スル。火酒ノ消費ハ北方及發ナル地方ニテハ南方及密メル地方ヨリモ多イトびりゆーハ曰ク、葡萄酒及其他ノ壓搾ニヨリ得ラルル飲料税ハ特ニ佛國

23) Stein, a. a. O. S. 319. 327. Rau, a. a. O. S. 256. 263. Pfeiffer, a. a. O. S. 410. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 311. Cohn, System d. Fw. S. 490.

ニ重要テ麥酒税ハ特ニ獨英ニ多收テアリ、火酒税ハ特ニ北方諸國ニ財政上ニ重要テアルト。ぼーリウーハ白ク、飲料税ハ一般ニイハバ南方諸國ヨリモ北方ニ於テ一層多收且ツ一層徵收容易テアル。——其ハ第一北方人ハ南方人ニ比シテ節欲ニ於テ劣ル特ニ彼等ハ到ル處ニ最重ク課税サレタル飲料タル酒類チ一層多ク欲ムカラ。次ニハ北方人特ニ英國人ハ外國産ノ又ハ少数ノ大工場ニテ生産セラルル飲料チ取ル慣習ガアルカラ。茶ハ其外國産ナルモノノ例、麥酒ハ其大工場産ノ例テアル。彼ハ夫ノ殆ンド準備ナク又ハ精巧ナル工業組織ナクシテ調達サレ得ル葡萄酒ノ如キ國産チ有シナイ。特ニ英國テハ大農業大工業ガ行ハレテ一體ニ租税徵收ノ物體ガ非常ニ少数テアル。<sup>24)</sup>

尙ホ右ニ依ルト北方人ノ方ガ多ク飲酒スルガ如キモ、實際ハムシロ反對ノヤツテアル。統計學者ズんごべるぐガ各國ニ於ル各種酒精飲料ノ純酒精分ノ人頭割チ計算シタ所ニ依ルト。<sup>25)</sup>

佛	11.1	瑞	10.7	せるびめ	8.8	露	5.2	芬	1.4
白	11.8	伊	10.0	英	8.7	瑞	4.4		
西	11.0	葡	10.0	奥	7.9	ル	4.4		
丁	10.7	獨	9.2	蘭	6.0	諾	4.4		
						威	2.6		

(註一八) ろつしあーハ白ク種々ノ酒精飲料ガ道義チ危ラスルコトニ流テハ程度チ異ニスル。故ニ人ガ火酒消費チ制限スル爲メ葡萄酒ノ輕税、麥酒税ノ一層ノ輕税チ奨メタ。併シ之ニ對シテハ公平ノ觀點ヨリ大ニ反對シナケレバナラスト。へつけるハ白ク、困難ナルハ各箇ノ租税義務アル飲料ノ間ニ適當ナル割合チ作ルコトナル。此ガ特ニ課税ニヨリ同時ニ教育上ノ副目的チ進メルトキニ然リト。<sup>26)</sup>

其四 酒税ノ經濟影響ト倫理衛生

酒税ニ就テハ特ニ火酒ニツキ其國民經濟上ノ影響ニ考ヘテ宥恕ヲ要スルコトガ往々ニシテ唱ヘラルル(註一九)。日本デハ餘リ問題ニモセラレナイガ、獨逸デハ此カ盛ニ問題ニセラレタ。即チ火

24) Cohn, a. a. O. S. 489. 490. Paricu, Traité des impôts. 2 ed. II. p. 274. Beaulieu, l. c. p. 662.  
 25) Creanga, Die Finanzen Rumäniens. Finanz-Archiv. XXIX S. 168-9.  
 26) Roscher, a. a. O. S. 43. Heckel, a. a. O. S. 54.

酒ノ蒸溜ガ農家ノ副業トシテ有斐デアリ、農家産物ノ用途トナリ、其ヨリ産ズル渣滓ガ彼ニトリ有益ナル肥料及家畜飼料ヲ供シ、随フテハ經濟上ノミナラズ國民衛生上ノ利益ヲモ進メルカラ(註二〇)、之ニ特別ノ注意ヲ拂ヘトイフノデアルガ、ソシテ實際ニモ此注意ヲ拂ツテ規定サレタガ、其結果ハ火酒使用ノ普及ヲ進メテ倫理衛生上ノ惡影響ヲ生シタ(註二一)。茲ニモ矛盾ガアル。立法者ハ何レヲ重ンズルカトイフコトニナルガ、農業經濟ニ造詣深キこんらーどニ依ルト肥料ニツイテハ近頃夫ノ渣滓ニ代ルヘキ良キ經濟的代用品ガ生ジ、家畜飼料トシテモ渣滓ヲ用キストモ經濟上ニモ馬苔薯其モノヲ用ユルモ可トイフコトデアルカラ、愈々以テ夫ノ經濟上ノ影響ヨリモ倫理衛生上ノ結果ニ重キヲ置イテ特別ノ宥恕ヲセナイ方ガ選ブベシトイフコトトナル。

(註一九) はふまんハ曰ク政府ガ火酒蒸溜ノ經營ヲ農民ノ副業トシテ有利トシナウトイフ必要ナ感ズル以上ハ、火酒ノ過度ノ消費ヲ高キ課税ニヨリ有効ニ停止セントスルコトハ不可能デアルト。うんぶえんばつはハ曰ク、農業ノ利益モガ火酒ノ高キ課税ニ反對スルト。<sup>30)</sup>

(註二〇) ろうしあー曰ク火酒ノ渣滓ノ家畜飼料トシテノ大價值ノ爲メ、火酒蒸溜業ガ恰モ薯ヲ肉ニ變ズル方便トイヒ得ルト。<sup>31)</sup>

(註二一) こんらー曰ク近頃證明サレタ所ニヨルト小ナル火酒蒸溜(農業利益ノ爲メニ宥恕サレタル)ガ飲酒ヲ普及シタト。<sup>32)</sup>

## 第二段 國民經濟ヨリ觀タル酒税

### 其一 酒税ノ存在ト國民經濟

27) Pfeiffer, a. a. O. S. 419. Stein, a. a. O. S. 319.

28) Conrad, a. a. O. S. 84. Bergius, Grundsätze d. F.w. S. 356. Roscher, a. a. O. S. 43. Staatmann a. D. a. a. O. S. 314. Pfeiffer, a. a. O. S. 419. Borgh, F.w. S. 139.

29) Conrad, a. a. O. S. 84-5.

酒稅ハ其副目的トシテ國民經濟上ノ利益ヲ進メルコトヲ有ツ。即チ之ニヨツテ國民ヲシテ酒ノ使用ヲ節セシメ、各人ガ酒ヲ濫用スル爲メニ其經濟上有益ナル支出ヲ困難トスルノ弊ヲ除クトイフコトヲ期スル(註二二)。併シ此經濟上ノ目的ハ十分徹底シタモノデハナイ。一方カラ見ルト酒ハ奢侈品トイフヘキモノデ(註二三)。合理的ニハ消費セズトモ可、此ニ稅ガ課セラレテ高價トナレバ之ガ消費ヲ止メ又ハ減ズルコトノ出來得ル筈ノモノデアアル。併シ他面實際ニハ酒稅アルガ爲メニ酒價ガ高クナリ各人ノ出費ヲ膨脹シ、其結果必ズシモ反省スルコトトナラス、相變ラズ以前ト同一量ヲ消費シ、又ハ多少之ヲ減少シテモ其ノ之ガ爲メニ支拂フ所ノ代價ガ以前ヨリモ増加スル程度デアルト、彼ハ之ガ爲メニ却テ其經濟ヲ困難ニサルルコトトナル。此ガ特ニ下層社會ニ於テ著シイ。斯ノ如キコトハ酒ノ使用ノ禁止ツレザル以上ハ又ハ下層民ニトリテハ非常ニ高キ稅ノ課セラレザル以上ハ避クルコトヲ得ナイ。夫ノ目的ヲ完全ニ達スルノニハ此稅ヨリハ酒ノ使用禁止ニ往クヨリ外ハナイ。特ニ此稅ニヨツテ、經濟上ノ利益ヲ計ルトイフテモ、其ハ一小利益ニ止マツテ、他面此ガ生産上ニモ分配上ニモ諸多ノ不利ヲ伴フコトヲ考フルト愈々以テ其ノ經濟上ノ價値ノ小ナルコトヲ思ハナケレバナラス。即チ酒造業ガ輸出貿易品ヲ供スルコト、<sup>34)</sup>農業產物ノ用途ヲ供スルコト、火酒ノ如キハ工業原料トモナルコト、<sup>34)</sup>火酒蒸溜ガ農家ノ副業トモナリ肥料及飼料ヲ供スルコトカラ考エ更ニ酒稅ガ生産ニ厄介ヲ與ヘルコトカラ考ヘテ(註二四)酒稅ノ存在ハ生産ヲ妨

33) Rau, a. a. O. S. 263.

34) Rau, a. a. O. S. 263. Pfeiffer, a. a. O. S. 419. Roscher, a. a. O. S. 43.

ゲ、酒税ガ後ニイフ如ク貧者ニ對シテ富者ヨリモ割合ニ重キ負擔ヲ課スルコト徵稅上ニモ酒ノ大生産者ヲ小生産者ニ比シテ一層有利トスルコト(註二五)カラ考ヘテ、酒税ノ存在ハ分配上ニモ不利ノ大ナルモノデアル。

(註二二) あだむすみす曰ク(此税ノ結果タル)此種ノ物ノ高價ハ必ズシモ下層人民ノ家族ヲ養フヘキ能力ヲ減少シナイ。眞面目且ツ勉強ナル貧民ノ上ニハ斯種ノ物ノ税ガ節儉令トシテ働ク。而シテ彼等ハ最早手ニ入レ難キ奢侈品ノ使用ヲ節シ又ハ全廢スルコトトナル。此強井ラレタル節儉ノ結果トシテ彼等ノ家族ヲ養フ能力ハ減少スル代リニ往々ニシテ増加セラレルト。

えーべるひハ曰ク酒精飲料ノ大消費ハ經濟上有害ニ影響スル。何トナレバ此ガ特ニ下層社會ノ所得ノ一大部分ヲ一層適當ナル使用ヨリ奪去ルカラト。こんらー曰ハク酒精飲料ノ使用ガ恰モト層社會ニ於テ所得ノ割合ニ重要ナル部分ヲ合理的ノ使用ヨリ奪フ所デアルト。<sup>35)</sup>

(註二三) 酒ガ奢侈品カニツキ財政文書ニ現ハレタ所テハ(1)全ク奢侈品トスルモノ——例之あだむすみす曰ク、消費品ハ必要ガ奢侈品カ執レカニ屬スル。必需品ニハ當ニ生活維持ノ爲メニ必要缺クヘカラサル商品ノミナラズ、其國ノ慣習ニテ、評判其キ人(最下級ノ處ニテモ)ニ此カクシテハ不作法トナル物ガ屬スル。凡ヘテ其他ノ物ハ奢侈品トイフ。英國テハ麥酒及強麥酒、葡萄酒ニテモ葡萄酒ハ奢侈品デアアル。如何ナル地位ノ人モ斯カル飲料ヲ飲ムコトヲ全ク止メルコトヲ得、爲メニ世ノ非難ヲ受ルコトハナイ。自然ハ生活維持ノ爲メニ之ヲ必要トセメ。又慣習ガ如何ナル處ニテモ、此ナクシテ生活スルコトヲ人民ニ不作法タラシメナイト。ほふまんハ曰ク、麥酒火酒ノ消費ガニノ財産ヲ意味シ、課稅能力アル奢侈ト見ルヘキモノデアルト。あいぜんはるこハ曰ク麥酒葡萄酒火酒等ハ下層社會ニモ日常ノ必需品トハナルモ、訶ノ墮落ナル意味テハ不要品トシテ止マルト。ばすてーぶるハ曰ク、酒精飲料ハ不必要ニシテ多クノ場合有害ナルモノ也ト。へつけるハ曰ク、葡萄酒麥酒火酒ノ如キ酒類ハ必要缺クヘカラサル營養材料テナイ。其享樂ハ任意的デ、生存維持ヲ損ズルコトナクシテ其享樂ヲ止メルコトヲ得ルモノデアルトらうハ曰ク酒精飲料ハ必要タルコトナクシテ多クノ人ニ頗ル誘惑的ナル享樂ヲ供スルモノデアルト。<sup>36)</sup>

35) Adam Smith, Wealth of Nations. Bk. V. Chap. II. Part. II. Art. IV. Ebene rg, a. a. O. S. 345-6. Conrad, a. a. O. S. 72.  
36) Adam Smith, l. c. Hoffmann, a. a. O. S. 262. Eisenhart, Die Kunst d. Besteuerung. S. 188. Bastable, l. c. p. 538. Heckel, a. a. O. S. 53. Rau, a. a. O. S. 247.

(2) 主トシテ奢侈品トスルモノ一いふつハ曰ク酒精飲料ハ營養方便トシテデハナクテ、主トシテ享樂方便トシテ及大部分奢侈的消費トシテ計算スヘキモノデアアルト。え一べるハ曰ク酒精飲料ハ殆ンド常ニ奢侈的消費ノ物體デアアル。何トナレバ其享樂ガ抵害ナクシテ否ナ往々ニシテ健康ノ直接ノ利益ノ爲メニ止メラルルヲ得ルカラト。<sup>37)</sup>

(3) 相對的奢侈品トスルモノ一いふんばハ酒精飲料ヲ相對的の不要トイフ。こんら一ハ曰ク、葡萄酒ハ南方諸國ニテハ一般の營養方便デアアルガ、此及東方ニテハ奢侈的飲料ト見ラルルヲ得ル。麥酒ハ適度ナル使用デハ適當ナル營養方便ト見ラルルモ、此モ適度ノ消費ノ部分ハ純奢侈的消費ト見ルヘク、火酒ハ絕對ニ酒精飲料中最有害ナルモノデアアルト。ふあいふあ一ハ曰ク、葡萄酒及麥酒香ナスヘテ酒精飲料ノ使用ハ奢侈デアアルカ何ウカ。酒精飲料ノ享樂ニ於ケル過度ガ奢侈タルノミナラス、放漫ナル浪費タルコトニハ凡ベテノ眞面目ナル人々ガ一致スル。併シ其レアルガ故ニ、緊張シタル労働ヲ爲ス人ガ其方附ケ及休養ノ爲メニ一杯ノ葡萄酒麥酒葡萄酒汁又ハ火酒ヲ飲ムトキニ之ヲ奢侈トイヒ得ルデアラウカ。一經嚴ニ依ルト困難ナル肉體上ノ労働ヲ行フ者ガ特ニ酒精飲料ヲ要スルヲ見ル。一麥酒ハ葡萄酒ヨリモ一層多ク奢侈品ト見ルコトヲ得ナイ。一火酒ハ必要ナル生活必需品ニ屬シナイト。特ニ火酒ニツキシえふれ一ハ曰ク火酒ガ凡ヘテノ飲料中最多ク課税スヘキカハ租税原則上疑ハシキモノデアアル。何トナレバ此ガ氣候ニヨリ地方ニヨリ及消費者ノ職業ニヨリテハ小租税力者ノ必要ナル享樂方便デアアルカラト。匿名政治家バ曰ク、露キ漏リタル氣候及特ニ海岸地方デハ火酒ノ享樂ガ數多ノ階級ニ必要ノ一種トナリ得ルト。<sup>38)</sup>

尙ホ享樂方便トイフコトニ於テ奢侈品トイフ意味ヲ表ハスモアル。例之下たいんハ曰ク、葡萄酒ハ確ニ絕對ノ營養材料デアハナクテ葡萄酒國デモ享樂材料ト見ルヘキモノデアアル。葡萄酒ノ享樂ヲ全ク止メテモ、勞働力ノ上ニ何等ノ有害ナル影響ハナイ。一火酒ハ何人モ之ヲ營養材料ト見ナカッタ。一麥酒ハ享樂方便ヲ同時ニ營養方便デアアルト。<sup>39)</sup>

(註四) へつけるハ曰ク飲料稅ガ諸多ク規定ニヨリ生産ヲ厄介ニシ一租稅形式ガ生産方法及一定ノ經營方法ニ持續的影響ヲ與フル。一此租稅監督ハ往々ニシテ非合理的ナル經營方法ニ導クト<sup>40)</sup> 尤モ此租稅ノ爲メニ生産ヲ刺戟シテ改良セシムルコトモアル。ふあいふあ一曰ク火酒ニツキシ生産方法ニ於ケル改良ガ租稅ノ結果ヲ打消シタコトガアルト。<sup>41)</sup>

37) Fitz, a. a. O. S. 5. Eheberg, a. a. O. S. 345.

38) Umpfenbach, a. a. O. S. 302. Conrad, a. a. O. S. 73. 77. 84. Pfeiffer, a. a. O. S. 400. 401. 410. 420. Schaffle, a. a. O. S. 282. 3. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 314.

39) Stein, a. a. O. S. 314.

40)

(註二五) ばすて下ぶるハ麥酒及火酒ノ生産ヲ少数ノ中心ニ集中スル近世の傾向ヲ指摘スルガ、此ハ畢竟此ニ對スル税ノ高ク  
ナツタ結果デモアル。何レニセヨ其他ノ關係カラシテモ、其重キ課税ハ一層大ナル生産者ヲ有利トスルモノデアアル。<sup>42)</sup>

## 其二 酒税ノ高サト國民經濟

酒税特ニ火酒ニ關シテ其蒸溜ガ特ニ農業上有益ナルノ故ニ高ク課税スル勿レトイフコトガ屢々唱ヘラルルガ(註二六)、此モ徹底セヌ論デアアル。此經濟利益カライヘバ寧ロ此税ヲ止メタ方ガ良イ。否ナ農家經濟ノ全局カライヘバ、ムシロ酒ノ生産消費禁止ノ方ガ有利デアアル。此ガ製造ニ伴ヒ肥料飼料ヲ得タリ、之ニヨリ副業ヲ得、産物ノ用途ヲ見出ストイフガ、所詮農民ガ生産シタル物ハ多ク之ヲ自ラ消費スルコトトナリ、結局時間努力ヲ無益有害ナル物ノ生産ノ爲メニ費シ、之ガ消費ニ附帶シテ諸多ノ損害ヲモ被ルコトニナルシ、肥料飼料ニツイテモ別ニ其途アリトイフニ於テハ、ムシロ斷然之ガ使用ノ禁止サレ生産ノ禁止サレタ方ガ有利デアアル。

(註二六) 註一九參照

## 第二段 財政ヨリ觀タル酒税

### 其一 酒税ニ於ル給付能力又ハ正義觀

租税ハ給付能力ニ對シ一般且ツ平等ノ負擔ヲ課スヘシトイフコトハ一般ニ認メラルル所デアリ、而シテ酒税モ亦斯ノ如キモノトシテ説明セラルル所デハアル(註二七)ガ、併シ此酒税ニアツテ

42) Bastable, l. c. p. 520.

43) Bastable, l. c. p. 520.

ハ此要求ガ十分ニ徹底サルルコトヲ得ヌ。此税ハ此點ニ於テ根本的ニ不完全ナ税デ、本來主要税ナドニナルヘキ資格アルモノデナイ。トイフノハ此税ノ轉嫁ノ不明確ヨリ生ズル給付能力不適合(註二八)ヲ別トスルモ、世ノ中ニハ給付能力ヲ十分ニ持チナガラ酒ヲ全ク飲マヌ人ガアリ、又飲ム人ノ中デモ多量ニ飲ム人ガ必ズシモ少量ニ飲ム人ヨリモ給付能力ニ於テ優レナイ。富者ハ貧者ヨリモ品質的ニ一層良キ物ヲ消費スル傾ハアルガ、此モ必ズシモ然リトハイヘズ、假令此ガ然リトイヘルニシテモ酒ヲ品等ニ分ラ適當ニ課税スルコトハ往々ニシテ難カシク(註二九)斯クテ此税ハ一般負擔ノ原則ニ適合セズ(註三〇)、又大體給付能力ニ對シ反對累進負擔トナル傾ガアル(註三二)。尤モ此ノ如キコトハ獨リ此税ニ限ラナイトカ、此ノ如キ例外的事實ノ顧慮ハ租税事項ニ就テ之ヲ爲ス譯ニ往カストカイフ辯解モアルガ(註三二)、孰レニシテモ不十分ナ辯解デ此税ガ不徹底タルコトハ避ケラレヌ。或ハ又此税ガ營利能力アル者ノミニ係ルコトニ於テ鹽稅等ノ如ク男女年令ノ區別ナク課スルモノヨリモ一層給付能力ニ適合スルガ如クニモイハルルガ(註三三)、併シ所詮租稅ハ小供其他營利能力ナキ者ニ課セラルルノデナク、鹽稅ト雖單ニ營利能力アル者ニ課セラルルニ外ナラヌカラ、此論ハ有力ナルモノデナイ。却テ夫ノ一般負擔トイフ點ヨリイヘバ酒稅ガ鹽稅ニ劣ルコトヲ顧ミナクテハナラヌ。更ラニ又此給付能力ニ適合セシムル爲メニハ各種飲料間ノ關係ヲシテ適當ナラシムルコトヲ要スルガ、此ガ財政上ノ多收要求ト矛盾スルコトニナリ(註三四)、實際ニ



ハムシロ前者ハ後者ニ讓ル傾ガ多イ。

(註二七) あだむすみす曰ク、國家ハ如何ニシテ直接且ツ比例的ニ其臣民ノ所得ニ課税スヘキカチ知ラザルガ故ニ、其出費ヲ課税スルコトニヨリテ間接ニ之ヲ税シヤウトスル。此出費ガ最多クノ場合ニ其所得ニ略ホ比例シテ居ルト想像セララルト。

うちハ曰ク酒精飲料ハ富者ガ量ニ於テモ質ニ於テモ一層多ク使用スルヲ例トスルト。びーるざつクハ麥酒ニツキテ曰ク、麥酒ハ富者ヨリシテ通例貧者ヨリモ一層多ク消費サルルガ故ニ、此税ガ平均ニ於テ人頭税的ニ働クトイフコトハ出來ナイト。<sup>44)</sup>

(註二八) へつけるハ曰ク、非常ニ解決ノ困難ナル問題ハ此税ノ轉嫁デアアル。此ガ不完全デアリ、且ツ其最終ノ結果ガ不確實デアルト。<sup>45)</sup>

(註二九) ぶあいふあーハ曰ク葡萄酒ニハ特段ナ不利ガアル。即チ此ニハ常ニ高價ナル物ヨリモ安價ノ物ニ割合ニ重ク課セララルノ不利ガアル。特ニ國內産葡萄酒ニツイテハ價値ニ依ル分級ヲ行フコトガ不可能デアルカラト。<sup>46)</sup>

(註三〇) へつけるハ此税ガ特ニ一般トイフ原則ヲ破ルトイフ。えーべるハ曰ク多クノ本來租税能力アル人ガ酒精飲料ヲ享樂セザルガ爲メニ之ガ税ヲ免ルルコトハ認メナケレバナラヌト。わぐなーハ曰ク、火酒税ハ一般トイフ原則ニ反スル。斯種ノ税ニテ全租税要求ノ餘リニ大ナル部分ヲ充タスコトヲ慎マナケレバナラヌト。<sup>47)</sup>

(註三一) わぐなーハ曰ク麥酒火酒葡萄酒等ハ容易ニ又大ニ平等ニ反スル。大所得ニ對シ小所得ヲ反對累進ニテ負擔セシメ、財産所得ニ對シテ勞働所得ヲ割合ニ重ク負擔セシムルコトトナルト。こんらーシハ曰ク頗ル高キ飲料ニヨツテ下層階級ヲ過負擔サセル危険ガアル。又生活上ノ地位ノ高イホド酒精飲料ノ爲メノ支出ノ所得ニ對スル割合ガ通例一層小イト。ぶあいふあーハ曰ク、或人ノ飲ム所ノ葡萄酒ガ其支出額ノ標準ト見ルヲ得ルカ。否ナ。其身體ノ構造ノ必要ニヨリ又其職業ニヨリテ或者ハ少ク飲ミ、他ノ者ハ多ク飲ム。經驗ニ依レバ難キ肉體上ノ勞働ヲ行フ者ガ特ニ酒精飲料ヲ要スルヲ見ル。然ルニ此ガ多クハ恰モ貧民階級テ、彼等ガ此税ニヨリテ最重ク課税セラルルコトトナルト。みるハ曰ク、茶珈琲砂糖煙草酒類ニテハ貧民ガ其相當負擔以上ニ貢ハナイヤツニ課税スルコトガ出來ナイト。<sup>48)</sup>

特ニ火酒ニツキ匿名政治家ハ火酒ノ消費ハ貧ト共ニ増加ストイヒ、こーんハ火酒ガ貧民ニ取リテハヨリ高價ナル飲料ノ到底

44) Adam Smith, l. c. Rau, a. a. O. S. 247. Biersack, a. a. O. S. 176.

45) Heckel, a. a. O. S. 54-5.

46) Pfeffer, a. a. O. S. 401.

47) Heckel, a. a. O. S. 54. Eheberg, a. a. O. S. 346. Wagner, Fw. 2. Aufl. II.

遠セザル度ニ於テ最安キモノトナリ、其上ニモ營養ノ不足及氣候上ノ原因が容易ニ手ニ入ルヘキ體體方便ヲ希望スヘキモノトスルトイヒ、ぶあいふあいハ火酒消費ハ人民ノ租税能力ノ尺度トシテハ最善格ガナイ。何トナレバムシロ此ト反對ニ富及租税能力ノ増加スルニ隨ツテ其消費ノ減退スルコトヲ主張シ得ルカラト。<sup>49)</sup>

(註三二) えーべるひ曰ク、實際小資産者ガ屢々富者ヨリモ割合ニ多ク飲料ノ爲メニ支出スルトキニ、彼ハ經濟上不合理ナルコトヲ爲ス。併シ租税立法ハ斯カル不規則ナルコトヲ願慮スヘキ理由ヲ持タヌト。<sup>50)</sup>

(註三三) ふいつつハ曰ク、酒精飲料税ハ主トシテ唯ダ勞働及營利能力アル人民ノミテ課税スルト。えーべるひ曰ク、此ガ少クトモ主トシテ唯ダ成長シタル隨フテ勞働及營利能力アル男ノ人ニ歸シ、鹽税ノ如ク全人曰ニ性年令所得ノ差別ナク課スルモノテナイトイフ利益チモツト。<sup>51)</sup>

(註三四) へつけるハ曰ク、困難ナルハ各箇ノ租税義務アル飲料ノ間ニ適當ナル割合ヲ作ルコトデアアル。タダ此種ノ試ニ租税收額上ノ願慮ガ妨害トナルト。<sup>52)</sup>

其二 酒税ニ於ケル屈伸力又ハ時勢觀

租税ハ其收入ガ屈伸力アルモノタルヲ要スルコトモ今日一般ニ認メラルル所デアアル。隨フテ酒税モ之ヲ充タサナクテナラヌ筈デアアルガ、實際彼ハ此要求ヲ徹底シ得ナイ。極メテ僅カ之ヲ充タスニ止マル。一方時勢ノ進歩ニ從ヒ國富ガ増進シ消費力ハ増加スル譯デアアルガ、齊シク時勢ノ進歩ハ倫理衛生經濟思想ヲ發達セシメテ酒ノ如キ物ノ消費ヲ節セシムルノ力モ可ナリ強イ。此點カライヘバ差引シテ前者ノ強キコトモアリ、マダ此税ニ甚シク不利デナイガ、他方政府財政ノ餘裕アルトキニ此税收入ガ増加ジ、而モ戰爭等事變ガアツテ收入ノ要求切ナルトキニ却テ減少スルノ危険ノ多キコトハ到底免レナイ。

49) Staatsmann a. D., a. a. O. S. 314. Cohn, a. a. O. S. 490. Pfeiffer, a. a. O. S. 421.  
50) Ebeberg, a. a. O. S. 346.  
51) Fitz, a. a. O. S. 4. Ebeberg, a. a. O. S. 346

### 其二 酒稅ニ於ケル任意性又ハ自由觀

租稅ハ便宜ニ適フコトガ望マシク、各人ニ任意擔否ヲ決定スル餘地アルモノノ選ムヘキコトモ一面ノ要求デ、之ニヨリ各人ノ生活ニ大切ナルノ自由ヲ齎ラス所デアル。而シテ酒稅ノ如キ必スシモ使用スルヲ要セザル物ノ上ノ稅ニハ此資格アリトイハルル所デアルガ(註三五)、其ガ決シテ徹底シタモノデハナイ。眞ニ完全ニ任意ヲ認メ自由ヲ伸バツウトスレバ此稅ヲ廢止スルノ外ハナイ。

(註三五)

へつけるハ曰ク酒類ハ其享樂ノ任意的ノモノデアルト。ふいつつハ曰ク擔稅及不擔稅ノ任意ナル標準動機ガ特ニ此

等ノ稅ニ著シト。えーべるびハ其物體ガ一般的ナルモ任意ナル享樂ヲ充タシ、其ガ必要ナラザル故、各人ニ於テ其經濟上ノ事情ニ應ジテ其享樂ヲ擴張シ又ハ制限セラルルヲ得ルガ如キ消費稅ガ最良ノ消費稅トスルナラバ、飲料稅ハ既ニ此觀點ヨリ最獎ムヘキ消費稅デアル。此稅ハ人民ニ大ナル度ニ於テ負擔及非負擔ノ可能ヲ與フルト。

### 結論

以上要之酒稅ハ一見非常ニ重要稅ノ如クニ見エ。又實際ニモ然リデアルガ、理論ヨリイヘバ決シテ良イ稅デハナイ。其ガ幾多ノ矛盾不徹底ヲモツ。近代財政ガ之ニ重キヲ置イタノハ其ガ邪道ニ入ツタモノト評スルノ外ハナイ。勿論一旦此ニ迷込シダ以上、其カラ出ルコトノ困難ナル事情ヲモツデ目前ノ都合カライヘバ之ヲ止メルコトハ出來ナイガ、併シ高キ理想カライヘバ之ヲ財政ヨリ取去ルベク、少クトモ財政ガ此ニ重キヲ置カナイコトガ獎メラルル。最高道義團體タル國家ガ其人民ノ不道義的行爲ノ頭ヲ撥ネルトイフコトハ彼ノ最大恥辱デアル。其レ自身ガ最大ノ矛盾デアル。